

第2回（仮称）奈良IC周辺まちづくり委員会 議事録

日時：平成27年3月19日（木）9：30～12：00

於：奈良市役所 北棟6階第22会議室

1. 出席者

1. 委員

大窪 健之	立命館大学 都市システム工学科 教授
国枝 よしみ	大阪成蹊短期大学 観光学科 教授
北口 照美	奈良佐保短期大学 客員教授
佐藤 由美	奈良県立大学 地域創造学部 准教授

梅林 聡介	大安寺西地区自治連合会 会長
河野 良文	大安寺 貫主
山田 満穂	奈良県立図書館 副館長（乾 代理）

（欠席委員）

向井 光太郎	奈良佐保短期大学 生活未来科 准教授
大西 耕司	大安寺地区自治連合会 会長

2. 事務局

都市整備部長	東井 素生
都市計画課長	喜多 六宏
課長補佐	角井 力
市街地整備係長	萱 則昭
他4名	

2. 議事

1. 開会

（事務局）

第2回（仮称）奈良IC周辺まちづくり委員会を開催させていただきます。

委員の皆様には、お忙しいところご参加いただきありがとうございます。

日頃は、奈良市行政の推進にご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

本日は、市長並びに副市長は、議会開催中につき欠席させていただいております。そのため、都市整備部長の東井よりご挨拶申し上げます。

○部長挨拶

本日は年度末のお忙しい中、委員の皆様方には（仮称）奈良IC周辺まちづくり委員会にご出席をいただき、誠にありがとうございます。また、平素は奈良市行政の推進にご協力をいただくとともに、都市計画の分野におきましても、格別のご理解ご協力を賜っておりますことを御礼申し上げます。

さて、本年1月23日に奈良県と本市におきましてまちづくりに関する包括協定が締結され、そのなかで、当地区のまちづくりのコンセプトとして、「（仮称）奈良IC及びJR関西本線新駅を核とした、地域資源を活用した魅力あるまちづくり」、まちの将来像として、「（仮称）奈良ICとJR関西本線新駅の交通結節点のポテンシャルを活かした新たな地域拠点の形成」、「国際文化観光都市としての魅力あるまちづくり」が掲げられております。今後これに基づき、県市で施策が展開されていくものと考えています。

先日の第1回委員会では、地域の特性、課題などをご説明させていただいております。本日は、まちづくりの基本方向、土地利用計画についてご審議いただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

○委員紹介

- ・前回欠席委員紹介：奈良県立大学准教授 佐藤委員
- ・欠席委員：奈良佐保短期大学准教授 向井委員
大安寺地区自治連合会長 大西委員

2. 委員会等の会議での非公開に伴う都市施設等の予定の変更について

(事務局)

○委員会等の会議での非公開に伴う都市施設等の予定の変更について説明

- ・(都) 西九条佐保線の変更及び都市高速鉄道 西日本旅客鉄道関西線の都市計画決定は26年度内と説明していたが、諸事情により遅れると聞いており、第5回委員会まで影響するかもしれない。
- ・非開示情報として、未決定事項と未熟な情報は、パブリックコメントまで影響すると思われる。

3. 奈良県と奈良市とのまちづくりに関する包括協定について

(事務局)

○奈良県と奈良市とのまちづくりに関する包括協定について説明

- ・平成27年1月23日付けで奈良県と奈良市とのまちづくりに関する包括協定書を締結した。
- ・奈良市内におけるまちづくりに関し、県市が相互に情報や意見の交換に努め協働により取り組むことが可能な事項について緊密に連携し協力することを目的としている。
- ・奈良市内では、4地区が対象で、「八条・大安寺周辺地区」については、当計画策定地が対象地区の一部となっている。
- ・コンセプトは、「(仮称) 奈良IC及びJR関西本線新駅を核とした、地域資源を活用した魅力あるまちづくり」であり、今後は、更に詳細協定を締結する予定である。

※ここからの進行は、大窪委員長

4. 第1回委員会の訂正及び意見に対する説明

(事務局)

○第1回委員会の訂正(P16、P18、P24、P25)について説明

○前回指摘された新規に検討が必要な事項への対応について説明

【質疑】

(大窪委員長)

パーキングの将来的な容量を検討する必要があるため、新駅ができた場合の乗降バランスについては、引き続きデータ入手に取り組んでいただきたい。

P34の周辺の歴史的沿革の図のうち上の2つの図に計画予定地を記入していただきたい。

5. 第2回まちづくり委員会 資料説明及び質疑応答

(事務局)

○(仮称) 奈良IC周辺まちづくり委員会資料の説明

■整備方向の検討フロー（P. 1）について説明

【質疑】特になし

■検討対象地区の特性及び課題（P. 2 地域の特性～P. 7 上位計画）について説明

【質疑】

（大窪委員長）

P 4に浸水エリアを表示しているが、線路の反対側に0.5～1.0m未満のリスクの高いエリアがある。様々な交通機能がここに立体的に集約される中で、避難スペースの確保の観点からも階層化された場所をうまく使っていく可能性がある。交通拠点が水没すると大きな混乱になるので、そのあたりは基本的課題として位置づけていく必要がある。

（佐藤委員）

P 2に市街化区域境界部分に人口増加のポテンシャルがあると記載されているが、具体的な住宅需要の特性を知りたい。奈良市は東側の旧市街地と西側の市街地の間に調整区域が入っていて、縁の部分にスプロールしやすい地域が南北につながっている。ここはその一部なのかと思う。具体的にどういう業者がどういう住宅を供給しているのか、どういう人たちが住んでいるのか、市内の需要なのか大阪からの需要なのか、奈良駅から通勤しているのかなど、住宅地としての特性がわかれば教えていただきたい。

（事務局）

このあたりは、スプロール化している地域の端になる。東側に大安寺の集落があり、その周辺の市街化区域内の農地には、税金対策として、集落の方がアパート経営をしている地区がかなりある。北側は、住宅地として開発されてから30年が経っており、ミニ開発よりも少し大きめの開発が進められている。北側の三角地では市の区画整理事業が進められており、最終的には戸建住宅を中心とした低層住宅地になる。

通勤経路については、基本的にJR奈良駅と近鉄奈良駅に出ていると推測する。

（佐藤委員）

地元の業者が住宅をつくって分譲しているのか。

（事務局）

大規模開発ではなく、地元の業者が多い。

（佐藤委員）

敷地規模も大きくなく、価格も抑えぎみで、庶民が買える住宅地といった感じか。

（事務局）

そうである。

（大窪委員長）

市街化区域の外にも人口増加地区があるが、こちらの傾向はどうか。

（事務局）

市街化調整区域の人口増については、以前からあった店舗、事務所の土地利用の中で、会社が二つに分かれたり、数世帯が住んだりしたことによるもので、人口の増員は十数名である。

（大窪委員長）

市街化調整区域の制度の中での分家等による微増という理解でよろしいか。

（事務局）

そうである。

（国枝副委員長）

人口増加のポテンシャルについて、根拠となる数字はあるのか。今後10年、15年の長いスパンでの予測などはあるか。奈良市全体として人口流出よりも流入の方が多いのか。

(梅林委員)

地元なのでよくわかるが、大安寺西地域には大きな道路がなく、ミニ開発が続いている。少子化と言われるが、大安寺西小学校は児童数が550～600名で変わらない。20年前は600名、今は560人と聞いている。いまだにミニ開発がどんどん建っている。住宅地もあり、大安寺もあるので、観光都市として開発すべきなのか、インターチェンジが来るので、流通拠点にするべきなのか、どう提案したらよいか迷っている。30年前に建った住宅地の高齢化率は高いが、新興住宅地では高齢者が少なく、小さい子どもが増えている。線路の東や南には農村地帯がある。

(大窪委員長)

ベースは高齢化しているが、新しい世代も入ってくる地域のようなのである。

(梅林委員)

地域では、子どもの見守り活動から認知症等の包括ケアまで幅広くやらなければならない。

(大窪委員長)

そのあたりを検討し、将来の方針を考えていく必要がある。国枝委員からご質問があった将来予測についてはどうか。

(事務局)

現在、奈良市では総合計画の後期基本計画を策定しており、その中で将来人口を推測している。地区ごとの将来人口を積み上げていると思われるので、資料を取り寄せる。

(事務局)

地区別の人口増加について、特に多いところでは平成17年から平成22年で700人から781人、8%増加している。

(大窪委員長)

具体的にどのあたりか。

(事務局)

大安寺三丁目である。

(事務局)

2階建てのハイツ等が増えてきている。ここは区画整理事業区域からは外れている。

(梅林委員)

P3で工業系地域として位置づけられている地区について、住宅が建ってきているが、今後、工業用地としていくのか、用途変更するのか。

(事務局)

現在、線引き、用途地域見直しのための基礎調査を行っている。基礎調査を終え次第、見直し案をつくる予定である。今は一切方針が決まっていないが、その時期には、一定の方向性を出したい。

(梅林委員)

駅前広場やバスターミナルができると農業地域がつぶされる。その辺の線引きについても考えていかなければいけないと思う。

(大窪委員長)

準工業地域には、何でも建ってしまうので、望ましいまちづくりを行う上で、一定のコントロールが必要になる可能性もある。農業については、重要な地元産業であるが、農振が指定されていないので、どういった都市計画の枠組みを使っていくか検討が必要になる。

(北口委員)

商業施設について、イオンができて、郡山駅前の西友がなくなるという話があった。イオンができたことにより、周辺のスーパーマーケットの売上が落ちたり、なくなったりしているのか。西大寺の近鉄はどうか。

(事務局)

郡山イオンは核施設イオンと専門店街、映画館の複合したショッピングセンターである。近鉄百貨店については、昔からのお客さんが多くいるので営業できると思うが、西友はなくなる。明確なデータはないが、市役所の横のイトーヨーカドーやアピタは食料品の客がメインで洋服の店舗等は客があまり来ない状況を確認している。

(北口委員)

生活者の視点も重要である。

(大窪委員長)

計画予定地周辺は、生活に必要な食料品等を買うのにも車で出かけないといけない状況のようである。生活者の視点も重要であるので念頭に置いてご検討いただきたい。

P 5の公共交通の利便性に関連して、バスターミナルを併設することにより、地域の利便性を上げ、観光客のアクセスも確保することが必要になる。バスルートは現在未定とのことだが、バス路線を設定しないとバスターミナルの容量が決まらない。路線バスはどこが運行しているのか。

(事務局)

奈良交通である。

(大窪委員長)

一定のところ、奈良交通のデータや今後の戦略についての情報をいただき、それを踏まえれば、より具体的な検討ができる。ぜひご検討いただきたい。

P 6の上位計画は後で効いてくる可能性がある。六条都市軸のところは、都市計画道路が廃止予定である。高規格な道路は歩行者や自転車には不要だと思うが、東西方向を結び付ける路線が少ないというお話があり、歴史的なシーンを活かした東西方向の連携等について、今後、具体的に検討していく必要がある。案を具体化するにあたり、そのあたりも検討の範囲に入れていただきたい。

■都市機能導入の可能性検討（P. 8土地利用機能：住宅系機能～P. 10土地利用機能：観光系機能）について説明

【質疑】

(大窪委員長)

現状は奈良の市街地に物を運ぶのに、市街地に入らなければいけないが、渋滞が比較的少ない市街地の手前にICができるので、物流系のニーズがここに集中する可能性がある。住民の静かな生活環境と観光のための歴史的雰囲気とトラックがたくさん来る状況をうまく切り分けて、バランスを取っていくことが大きな課題として見えてきた。

パーク&ライドの駐車場など、スケールの大きな交通系スペースが必要になるので、歩く人と空間や動線を分離することが大事なポイントとなってくる。

(佐藤委員)

ICと駅が複合化するポテンシャルをどう捉えているのか。東西の道路がきちんとすれば物流拠点も成立するかもしれないが、もしかすると普通の住宅地が広がるだけのポテンシャルしかないのかもしれない。都市機能の導入については、まちのつくり方と一体でなければわかりにくい。ICと駅が近接することのポテンシャルをどう読むのかについて、お考えを聞かせていただきたい。

(事務局)

市と県で協定を結び、交通網、渋滞解消に向けた道路整備について検討中である。新駅予定地周辺の東西の道路網が弱いとの認識は県市で一致している。

新駅から西側は、現在も渋滞している県道京終停車場薬師寺線の新駅から国道24号バイパスまでの区間の改良整備について関係機関の協議で一定の方向が出ている。

東側は廃止する（都）八条紀寺線に代わる道路整備として、大安寺の南側の新駅から（都）奈良橿原線までの市道を観光ルートと考えており、周辺の交通利便性も考え、拡幅整備していきたい。

ICから北側は（都）西九条佐保線の県による整備が決まっている。

ICから南側の（都）西九条佐保線の未整備区間については、市による整備を考えていきたい。

平成30年代半ばに新駅及びICができることを踏まえ、道路網の整備充実を図り、流通機能も呼び込めるようにしたい。

（大窪委員長）

まちづくりを考える上での大事な前提条件であるので、今回は、その内容を資料に追記していただきたい。

（河野委員）

大安寺の中を東西に抜ける道が狭くて困っており、南側の市道を拡幅するという考えもあるが、文化庁など、旧境内とのからみで難しいところがあると思う。文化財行政との話もしていかないと前に進めないと思う。

（事務局）

その道は史跡の真ん中を通っており、市の文化財サイドとも協議している。現状変更が難しいことは市文化財課からも言われており、認識している。それを踏まえた方策を検討している。

（大窪委員長）

重要な歴史的ルートであり、歩いて回れる観光ルートとして積極的に活かしていく中で、文化財の観点もうまく考えながらバランスとった道路設定にしないと意味がない。史跡の中なので拡幅は難しく、歩いて楽しめるルートになる方向性かと思う。

（事務局）

佐藤委員のご指摘の駅とICの複合によるポテンシャルの件については、後程、整備方向の展開イメージのところ、P19の交通結節点機能の考え方で説明する。ご了解いただきたい。

（事務局）

第1回資料のP24に平成30年代半ば頃の都市計画道路の状況について現在把握している分を載せている。

（大窪委員長）

そこに先程口頭で説明された今後の方向性を追記いただきたい。

■都市機能導入の可能性検討（P. 11土地利用機能：その他機能～P. 14その他）について説明

■まちづくりの基本構想（P. 15地区条件からの課題整理～P. 16特性からの課題整理）について説明

■まちづくりの基本構想（P. 17まちづくりの基本理念と基本目標）について説明

■整備方向の展開イメージ（P. 18まちのイメージ展開）について説明

■整備方向の展開イメージ（P. 19交通結節点機能の考え方、P. 24参考1歩行者動線の確認）について説明

【質疑】

（大窪委員長）

参考1の階層イメージ図について、(都)西九条佐保線はどこで平面に擦りつくのか。

※ここで別紙を配布

(事務局)

(都)西九条佐保線は、(仮称)奈良ICから降りてくるが、県道との交差部ではまだ高架で、鉄道の下をくぐって北に行く。JRは済生会病院を過ぎるあたりまで高架となっている。県道や市道は平面構造となっている。ICから南、西、東に行く場合はグレーで示す側道から入る。

(事務局)

配布資料について補足する。現時点で把握している状況であるが、改札は1階で、その利用可能時間帯は未確定だが、改札前の自由通路を使って、東西の行き来ができる。東側に観光バスターミナル、市道を挟み、観光用パーク&ライド駐車場といった配置になる。また、薄緑線で歩道を表示している。

(佐藤委員)

駅の表玄関は西側になるのか。観光客は大安寺と反対側にある駅前広場側に寄りつくのか。

(事務局)

1階レベルが改札で自由通路が西口駅前広場と東口の観光バスターミナルとに接続しているので、電車を降りた方は東西に出ることが可能である。大安寺を拠点として考えると東側ということになる。駅東側の広場部分は京奈和自動車道の地下部分がないので、強固なものがないという条件がある。このため、東側は広場的な扱いの簡易なものとなり、京奈和自動車道等を使って来訪される自家用車や観光バスを止められればと考えている。

(大窪委員長)

このあたりも、今後のまちづくりのなかで変更していく部分が出てくるかと思う。

■整備方向の展開イメージ(P.20商業・交通拠点形成型～P.23展開イメージの比較評価)について説明

【質疑】

(大窪委員長)

提示されたA～C案は極端に振った案だと思う。落としどころとして、それぞれの中でどこを重要視しながらバランスを取っていこうかという議論になると思う。

(佐藤委員)

先程の駅とICが一緒にあることの捉え方はここに表れてくると思う。駅だけならば農地の開発をコントロールして大安寺を中心とした開発をしていくというシンプルな形になると思う。ICだけならば、交通緩和や歩行者の安全が議論の中心になる。両方があることでどう考えるのかが大きなポイントになると思う。

3つの案のうち副都心形成について、今までの市の計画にないものが平成30年代半ばを目途に可能なのか。

観光にしても何にしても奈良駅の拠点性との役割分担をどうするのか。おそらく既にある奈良駅よりも大きいものをつくるということにはならず、奈良市内の観光はJR奈良、近鉄奈良がメインで、こちらがサブになると思う。たとえば、京都から来た観光客が県の南部や和歌山方面に行く場合の結節点として、鉄道から高速道路に乗換えるルートがあれば、新駅が広域観光の拠点になってくる。そう考えることで拠点の意味が変わってくる。どういう乗り継ぎを想定するのか、あるいは乗り継ぎは考えないのか、それによって中身が変わると思う。

(事務局)

副都心に関しては、行政機能のある程度分散して持ってくることになれば、副都心と言えると思うが、現在のところ、そこまでは予定していない。

観光に関しては、市長が観光に力を入れており、新駅を中心に西の京方面へのルートをつくりたいと考えている。現在、西の京方面へ行くには近鉄しかないので、新駅をJRで西の京に行く拠点としたい。また、東には奈良町の古い街並みがあり、市はその整備に力を入れている。そこへの南側からのルートとしてこの駅を拠点として使いたいとの構想は持っている。

(佐藤委員)

奈良駅との役割分担は考えていないのか。

(事務局)

観光の大きな拠点はJR奈良駅であり、新駅は補完的な駅になるのではないかと考えている。

(大窪委員長)

新駅は南側の拠点、南側から来た人を受け止めるためのゲート的な機能が期待されており、市長のご意見としては、観光として東西の軸の中心に置きたいという思いがあると拝察される。どういった計画展開をしていくにしてもこれらの要素を活かしていくことは可能と考えられ、これを念頭に置いて検討を進めていくことになると思う。

A～C案のどれか一つを選ぶということではなく、提示された中のこの部分は大事にしたいといった議論の中でバランスをとることになると思う。

(北口委員)

このあたりの観光にとって、大安寺は非常に重要だと思う。ここから奈良町に行くということだけでは弱いと思う。計画は進んでいないようだが、大安寺の史跡公園の整備についてはしっかり考えていただきたい。

観光拠点について、東西には道がなく、東には車が入りにくい。北に行って奈良に行くのが現実的かと思う。

副都心の話について、ここは奈良市の南の端であり、むしろJR奈良あたりにサブ都心の機能があつた方が便利ではないかと感じている。

(事務局)

奈良市の課題として観光バスを停めるところがないということがある。JR奈良駅周辺は区画整理や再開発で基盤整備を終えているが、観光バスの駐車場がない。また、近鉄奈良駅周辺にも観光バスの駐車場がないので、新駅周辺に観光バスの駐車場をつくることを考えているところである。その辺を含めて、奈良市の南の観光拠点とすることを整備の一つの方向付けにしていきたいと考えている。

(大窪委員長)

鉄道だけのパーク&ライドでなく、バス等への乗り換えも検討していく必要がある。

副都心形成については、南で不足しているサービスを補完する必要があるかもしれないが、おそらくがちがちの行政サービスに特化したイメージではないと思う。

(河野委員)

パーク&バスライドの拠点ができたとして、そこからどういう動きで街なかに入っていくのが、もう少しわかればと思う。

大安寺の旧境内の北側の大半は住宅地になっており、史跡公園にはなりにくい。奈良市の文化財課が整備している南の塔跡は、かなりのエリアがあり、防災面で避難所等としても利用できる。史跡公園として、塔跡の基壇の整備などは進んできており、周辺の緑地をどうするかというところまできている。

大安寺を観光拠点として考えていただくことはありがたいが、車を使つての観光は現時点では困難である。徒歩、自転車を手軽に来てもらえるよう、観光ルートとして駅前から寺に至る歩道など、それなりに整備された歩く道の整備を考えていただきたいとの思いを持っている。

大安寺の南門の前の道をまっすぐ行くと薬師寺の中門の前に至る。それが平城京の六条大路になる。それを利用した道の整備ができないかと考える。もう一つ、南から平城京に入る中ツ道がある。郡山では部分的に発掘されているが、その線を伸ばすと大安寺の東側に至ると思われる。そういったことも表示できる道として、車用でなく歩く観光の道ができていけばという思いがある。

新駅が設置されて利便性が高まる中で、済生会病院と直結することにメリットがあるという議論があった。図書情報館や奈良市の埋蔵文化財センターなどが近くにあるので、そういうところとの関係が考えられないか。付随する施設が持ってこられれば良いかと思う。

(大窪委員長)

具体的なイメージをご提示いただいた。街なかに行くのにも車でなく、なるべく歩く、または自転車で周辺の環境に大きな影響を与えないようにしようという視点、ルートについて歴史街道的な位置づけを明確に出していけばどうかというご提案、既存の周辺施設との接続性もしっかり考えなければいけないというご意見をいただいた。第3回以降の具体的な検討で積極的に盛り込んでいく必要があると思う。現段階で事務局から何かあるか。

(事務局)

西側の駅前広場と済生会病院をつなぐ予定をしており、利便性は高まると考えている。

(梅林委員)

立場により、見方も要望も違うと思う。地域住民からするとB案になるが、駅ができて南の玄関口になるとすればA案かとも思う。知事も市長も同じように奈良の南の玄関口として発展させていきたいという話をされていた。イオンモール郡山ができてから、オークワ、中村屋などのスーパーがなくなり、お年寄りが買い物難民化しているの、商業施設も必要かと思う。住宅地や情報館、小中学校が密集している地域もある。きれいな川辺のまちをつくりたい。4月には見事な桜が咲く。その辺を共存させながらどう発展させていくのか、私も悩んでいる。いずれにしても委員会の中で意見を出しながらやっていければと思っている。よろしく願います。

(大窪委員長)

BとAの間辺りの着地点のイメージの中で、良好な住宅地と良好な歴史的な街並みはほぼ反しないと思うが、商業や物流の要素とのバランスを考えていく必要がある

(乾代理)

インフラの部分と施設の部分があるが、提示されている施設は良い意味でも悪い意味でもステレオタイプな構成となっていると思う。全国的にも農産物の直売所とスーパーと観光物産が一体となった施設の横に図書館があるような事例があり、施設のソフトの部分の工夫が必要だと思う。新しいところでは岩手県の紫波町が展開している道の駅と文化施設の一体化、関西で言うと4月にできる森ノ宮のキューズモールに、地元の人とやってくる人が本を持ち寄って交流するスペースが仕掛けられている。同じようなことが立命館大学の茨木キャンパスでも4月に始まる。インフラの部分が基礎になるが、施設の部分でいろいろなものを融合させながら、外から来る人と地元の人をどのように交流させていくかということ、また、今まで別々につくっていたものを共存させたときにどのような化学変化が起きるのかということを考えるのも大切である。

(大窪委員長)

非常に重要な視点だと思う。スペース的にそれほど余裕がないところにいろいろな機能を詰め込みたくなるが、他にないものを設けていかないと南のゲートとしての位置づけがはっきりしないと思う。

先進事例もあると思う。具体化していくプロセスの中で、事務局で事例調査を進めていただくことで、限られたスペースでコンパクトかつ化学変化が期待できるようなまちづくりにつなげていくことを目指していく必要がある。

(国枝副委員長)

奈良駅と郡山駅の間に挟まれているので、既にある機能と重複し、うまくいかななくなることが心配である。商業関係の民間の事業者誘致に際して、すでに出てしまっているということもあり得る。いまはスーパーの事業者の合併、再編の機運があるので、商業の誘致に際しては、それも見込む必要がある。

住民の観光に対する意識が非常に重要である。住民がどういったまちづくりを希望されるのかという住民の観光に対する意識が非常に重要である。

地元農産品の販売など、今までJR奈良駅や近鉄奈良駅にない機能ができればこの地域一帯が活性化し、ここが十分活かされたことになるように思う。

(大窪委員長)

今回、具体的な意見と全体のフレームワークに関して様々なご指摘をいただいた。次回以降、事務局で検討し、その都度ご指摘をいただく形で進めていくことになると思う。

本日、欠席されている委員の意見について、事務局から願います。

(事務局)

欠席委員の向井委員と大西委員の事前説明でいただいた意見を報告する。

向井委員は、イメージBを重点にAの一部の導入が一番考えられるとのことであった。理由として、周辺の交通が発達していない。大規模施設誘致による交通量増加による住民ストレスの回避。大規模施設は、お年寄りには歩く負担が増える等考慮すると、各施設コンパクトな多機能商業系に交通機能施設を併せ、多機能商業施設に住宅配備が推奨できる。また、欧米系の観光客の低層で低コスト宿泊施設も面白いとのことであった。

大西委員は、やはり道路や駅前広場や路線バスルート等交通機能についてはどのようになるのかが一番の注目点と思われる。また、新駅が出来るということで、この地区周辺にない、地元住民及び観光客が利用できる少し上品な、会合してその後飲食できるような施設を望まれている。

(大窪委員長)

欠席委員からのご意見は、ここでの議論とバッティングするものではないと思う。特に異論はないということでもよろしいか。では、今日のご意見を踏まえ、事務局で作業を進めていただきたい。

次回はいつ頃か。

(事務局)

事前説明のときに修正工程表をお渡ししたが、現時点では5月末を予定している。ただ、道路等の計画案の把握時期により、多少遅れる可能性がある。

(大窪委員長)

今回は、5月末から6月くらいとのことである。

その期間、座長を務めながら不在になることについて心よりお詫び申し上げます。期間中、副委員長に議事の進行をお願いしたい。

6. 閉 会